



日本家族看護学会 News Letter

第13号 1報
発行 2017.3.14
広報委員会

大変遅くなりましたが……

第23回学術集会の報告

第23回学術集会が、2016年8月27、28日に、山形大学の古瀬みどり教授を学術集会長として、山形大学の全面バックアップにて、駅前の山形テルサで開催されました。看護学生を含めて930人の参加があり、大盛会のうちに終了しました。メインテーマは、古瀬先生の研究テーマを探求すべく『家族を癒すケアの探求～エンド・オブ・ライフケアの実践～』として、一貫したプログラムで、どの会場も満員、熱気にあふれていました。がん、認知症、在宅診療、子どものエンド・オブ・ライフケアなど、それぞれの状況における家族への支援についてディスカッションされました。

毎年、どんどん盛んになっている委員会企画や家族支援CNSのセッション。家族看護学と実践の発展を実感させられました。



学術集会長 古瀬みどり先生



＜メイン会場＞

会長講演では、終末期がん患者への訪問看護支援など、古瀬先生の研究成果が紹介され、家族の癒しに必要な支援者の態度について改めて考える機会となりました。

グループホーム運営者、診療所所長、管理栄養士など、多職種の講演者が登壇され、病院、施設、地域における家族看護について多くの示唆を得ました。

「日本の家族看護教育における看護師に求められる能力 -看護基礎教育における家族看護学教育の充実を視座に-」IFNAIによる「看護師資格取得前の家族看護学教育」「ジェネラリストの家族看護実践能力」について、日本語翻訳に携わられた先生方から解説が行われ、参加者と共有がなされました。また、これら実践能力をいかに育てるかという課題に対して、学会教育セミナーで行われている「家族看護研修パッケージ」の解説がなされた上で会場との意見交換が行われ、日本という文化背景の中で、どのように具体化していくのかなど、今後の課題なども検討されていました。



ポスター会場はコンパクトにまとまっていて、口演などの合間にも、見たいものをさっと見ることができました。若い研究者が集う様子に、ワクワクします。



「教育促進委員会企画1家族支援専門看護師の教育機能の活用による家族看護実践の普及」

家族支援専門看護師が、家族・病院・医療などが変化する状況で、どのような教育を行っているかについて、実際の取り組みが紹介されました。家族看護の面白さ・有用性を伝えつつ、児施設の看護師や地域の看護に携わる人など、対象毎に必要な知識(コア)を設定していることが報告され、会場との活発な意見交換がなされていました。